

日蓮大聖人御書全集

おとごぜんのははごしよ

乙御前母御書

新版
1684
）
1685

おとごぜんのははごしよ

乙御前母御書

ぶんえい

文永10年('73)

ねん

11月3日

がつ

にち

さい

52歳 日妙

にちみよう

乙御前母

おとごぜんのはは

にちれん

日蓮

にようぼう

なによりも、女房のみとしてこれまで来て候いしこ

身

きた

そちら

流

そちら

おんこころ

と、これまでながされ候いけることはさることにて、御心

顛

有難

覚

ざしのあらわるべきにやありけんと、ありがたくのみおぼ

そちら

え候。

しやかによらい

みでし数多

中

じゅうだいでし

釈迦如来の御弟子あまたおわししなかに、十大弟子とて

じゆうにん

もつけんそんじや

もう

ひと

じんずうだいいち

十人ましまししがなかに、目犍尊者と申せし人は神通第一

してんげ

もう

にちがつ

巡

たも

にておわしき。四天下と申して日月のめぐり給うところを、

髪 筋 ひと

切

たま

かみすじ一すじきらざるにめぐり給いき。これはいかなる

故 尋

先 生

せんり

ゆえぞとたずぬれば、せんじょうに千里ありしところを

通 ぶつぼう ちようもん

かよいて仏法を聴聞せしゆえなり。

てんだいだいし

みでし

しようあん

もう

ひと

ばんり

分

また天台大師の御弟子に章安と申せし人は、万里をわけ

ほけきよう

聞

たま

でんぎようだいいし

さんぜんり

過

しかん

て法華経をきかせ給いき。伝教大師は三千里をすぎて止観

習

げんじようさんぞう

にじゆうまんり

行

はんにやきよう

えたま

をならい、玄奘三蔵は二十万里をゆきて般若経を得給え

り。

みち 遠 こころ 道のおきに心ざしのあらわるるにや。

みな なんし ごんげ ひと 仕業 かれは皆、男子なり。権化の人のしわざなり。今、御身は

によにん 権 実 知 女人なり。ごんじちはしりがたし。いかなる宿善しゆくぜんにてやお

わすらん。昔女人、すいおとをしのびてこそ、あるいは千里せんり

をもたずね、石いしとなり、木きとなり、鳥とりとなり、蛇へびとなれる

こともあり。

じゅういちがつみつか

にちれん

かおう

十一月三日

日蓮

花押

乙 御 前 母

おとごぜんのはは

乙 御 前

人

そうろう

ほけきよう

おとごぜんが、いかにひととなりて候らん。法華経に

宮 仕 さま 奉 公 乙 御 前 おん 命
みやづかわせ給うほうこうをば、おとごぜんの御いのち、
さいわいになり候わん。
幸 とうぢら

いまは法華経をしのばせ給いて仏にならせ給うべき
ほけきよう 徳 たま ほとけ 成 たも
によにん
女人なり。かえすがえす、ふみものぐさき者なれども、た
もう とうろう 文 懶 もの
びたび申し候。また御房たちをもふびんにあたらせ給う
承 とうろう 不 便 当 たも
とうけたまわる。申すばかりなし。